

第2回沖縄科学技術研究基盤整備機構分科会 議事要旨

1. 日時：平成18年7月31日(月) 10:00~12:30
2. 場所：霞が関東京會館 エメラルド
3. 出席委員：平澤分科会長、伊集院委員、遠藤委員、長岡委員
4. 議事概要

(1) 分科会長代理の指名について

分科会長から分科会長代理に遠藤委員が指名された。

(2) 第1回分科会議事要旨の確認について

議事要旨の確認がなされ、原案通り了承された。

(3) 平成17年度業務実績について

機構から平成17年度業務実績の説明があり、その後、意見交換がなされ、委員から下記の質問・意見が出た。

総合業務システムについては、維持できるものが必要である。今後どのように改善していくかが課題となる。

研究成果の発表数については、純粹に機構での研究に基づいた研究成果と共同研究や研究者の兼務先での研究成果を分けて示した資料があるとよい。

本来、PIを入れるべき施設を整備してからPIを入れるべきである。PI確保の計画と施設整備の計画の関連のわかる資料が必要である。

機構の沖縄との関係も大切である。沖縄TLOの強化に関わる等の活動で、沖縄が国際化のメリットを受けるよう促す配慮も必要ではないか。

連携大学院制度は質を担保しつつ、数も増やすべきである。学部を持たない大学院は学生募集に苦勞する傾向にあるので、学生を集めるメカニズムの強化は重要だ。

理事長、事務、研究者、内閣府の関係、役割分担は、組織が上手く機能するために大切だ。必要ならばそのための補助的な説明をしてほしい。

研究者の採用状況について、辞めた者もいるとのことだが、キャリアアップのために辞めた者については、人材育成という観点から指標に含

めても良いのではないか。

全体的に、指標の数値化に努めてほしい。

(3) 平成17事業年度財務諸表について

機構から平成17事業年度財務諸表の説明があり、その後、意見交換がなされ、委員から下記の質問・意見が出た。

貸借対照表上の繰越金については妥当な理由があるかの説明が必要である。

個々のプロジェクトの資金使用状況については、研究計画等との対比において評価されるべきであり、研究計画のスケジュールを含めた資料があるとよい。

(4) その他

事務局への質疑について

機構関係者退席後、内閣府に対しての質疑が行われ、委員から下記の意見が出た。

PI 拡充について年度毎の目標数値が決まっていれば、示してほしい。

PI の募集については公正、公平な手続きにのっとり、質の高い研究者のみを採用すべきである。

内閣府の他の独法との並びで見ても瑕疵のないような評価を行いたい。

今後の予定等について

各委員の評価提出日が8月14日であることが確認された。

内閣府評価委員会の本委員会が8月28日に行われること、また、その後総務省の政策評価・独立行政法人評価委員会に評価が提出されることが確認された。